

たんぽぽ



第1号 令和元年6月

社会福祉法人 岩手愛児会
たんぽぽ病児保育所
〒020-0102
盛岡市上田字松屋敷11-14
TEL 019-662-5619
携帯 070-1736-3793
E-mail tanpopo@aiji.or.jp

向夏の候、暑気日ごとに厳しさが増す今日この頃、熱中症にご用心ください。蒸し暑い日は要注意です。小まめに水分を摂取して過ごしましょう。熱中症の症状の初期は「めまい、失神、筋肉痛、こむら返り、発汗過多」です。重くなると「吐き気、嘔吐、頭痛、気分の不快、倦怠感、虚脱感(ぐったり、力が入らない)」そして、体温の上昇で熱が出てきます。重度になると「意識障害、けいれん、手足の震え障害、高体温」と命に危険が生じます。梅雨時期の蒸し暑さや息苦しい暑さには、水分補給を十分に汗をかいたら飲むようにしましょう。涼しい場所に避難することもポイントです。具合の悪い時は、我慢せずに病院で手当を受けましょう。お体を大切にお過ごしください。

<アタマジラミ症をご存じですか？>

- ・頭髪の中に2~4mmの少し透けたベッコウ色の虫が4週間生き、0.5mm大の白い卵を産み7日で孵化します。
- ・成虫と幼虫は頭皮から吸血し生息します。吸血によって頭皮に痒みが出てきます。痒みが出て頭を掻き始めます。
- ・見つかった時に駆除専用のシャンプーを使い始めたら登園登校出来ます。

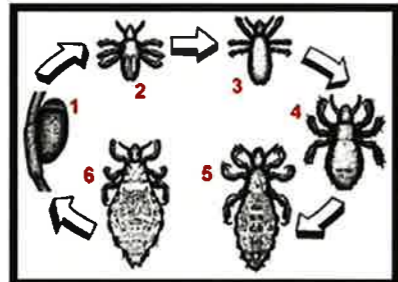
感染経路・流行状況は？

- ・接触感染により、頭皮から集団での就寝、添い寝、頭や顔の寄せ合い、衣服の更衣や混雑したバス電車でも感染注意。
- ・スイミングスクールや公共温泉施設での感染もあります。体育の更衣でも感染します。
- ・保育施設では頭を近づけて遊ぶことが多く、午睡など伝播の機会が多い。家庭内でも伝播する。

予防・治療は？

- ・薬局で購入し駆除薬(スミスリンシャンプー剤を3~4日おきに3~4回繰り返す)使用。毎日お風呂洗髪をする。
- ・薬剤師の居るドラッグストアで相談し駆除剤の使用方法について尋ねてください。
- ・保育施設や学校へ知らせる集団感染の予防を。診断された人には治療をお願いします。
- ・家庭内では、家族の感染を防ぐこと。寝具カバーの乾燥機やアイロン使用による熱で撃退しましょう。

<写真の虫がアタマジラミ> 頭髪に卵を産み付けます。駆除シャンプー剤に付属のクシでそぎ取ることが出来ます。卵は堅いので孵化した虫を駆除剤で死滅させることがポイントです。



<おたふく風邪> のお話です。 みなさんはご存じでしたか？

おたふく風邪は、感染して流行する病気です。日本では年間43万人~135万人の患者が出ていとされています。おたふく風邪になり合併症の発症率0.1~0.2%のムンプス難聴は、年間800~2700人の子どもが難治性の難聴となって生涯辛い思いをする恐れがあります。ムンプス難聴と言われる聴覚神経の死滅によって起こるもので治癒が見込めずそのままです。

(今年のNHK朝の連続ドラマ「半分青い」の主人公の鈴愛(すずめ)がムンプス難聴でしたね) 精巣炎では、思春期以降で発症率25%の合併症があります。卵巣炎も思春期以降で発症率5%です。無菌性髄膜炎も1~2%(8000~27000人)が危険と隣り合わせの状態にさらされています。

日本では、任意接種でお金がかかりますが防備するためのワクチンがあります。(予防すべき予防可能な疾患です)

アメリカでは、1989年からムンプスワクチン2回接種が実施され、今では全米で年間300例以下しか発症せず、ほぼ絶滅状態です。アメリカの人口は、ざっと日本の2倍あるので日本が同様に予防接種をすると年間150人以下しか発症しない計算になります。そんな2回も接種しているアメリカでも2006年アイオワ州を中心に6000人程度の流行があり、それが問題視され一部の州ではワクチン3回接種が行われ、結果、流行は終息に向かいました。現在のアメリカ政府は、3回目接種の対象をどこまで広げるべきか検討しています。(アメリカは発症するとニュースになります)

日本は、ワクチンを1回もやらない人が70%です。仮に100万人がおたふく風邪になり、その2000人がムンプス難聴になってしまう恐れは現実厳しいですね。先進国と言われる同士でも違いがあります。(2006年6000人の流行で問題にしたアメリカ。日本は流行すると2007年の43.1万人以上の発症者とは…。さらに多かったのは2005年は最大135.6万人の発症数でした。来年はオリンピックの年、大流行が危険です。)

予防接種をすることで生涯悩む合併症を防ぐことが出来ます。おたふくに感染しているが健康に見える無症状の不顕性感染者(約30%で乳児に多い)と接触しても感染します。身を守るには防備するワクチン接種があります。※1歳になったら1回目を受けましょう。2回目は5歳~6歳が時期となっております。(日本小児科学会は、おたふくかぜワクチンの2回接種を推奨しています。)

ちなみに、世界全体では61%の国で定期接種(全児童に)を行い、その内91%が2回予防接種を採用しています。(WHOデータから) 日本では、70%の人が「0回」という結果が流行を避けられない、合併症で苦しむ子どもが居るのも現実です。

そして、怖いことに「不顕性感染」というくおたふく風邪に感染しているが症状が見られず健康に見える無症状感染者>が感染源となり、その保菌者と接触して感染し流行となってしまう事です。おたふく風邪の発症者の隔離だけでは、完全な拡大流行を阻止することは出来ないのが今現在の日本なんです。国が責任を持って予防のために義務接種してほしいと医学界でも願っています。(予防ワクチンの副反応のリスクも懸念されますが、おたふく風邪を阻止して合併症を起こさないことが重要と思います。生涯苦しむ難聴で聴覚を失う子どもを未然に防ぐことができる。両側の難聴だけは避けたいですね。今は平均寿命80歳以上です。難聴で生きていく永い人生を予防出来るのですから。) ※盛岡市でのおたふく風邪発症が0ゼロなら「素晴らしい」と思いませんか…。安心して暮らしたいですね。

<病児保育からのお願い> 受診を済ませたけれど…、新たな症状が出たらどうすれば良いの？

発熱で保育園に呼ばれて直ぐに受診した。まだ、初期段階でこれから出てくるであろう病気の症状が潜んでいます。発疹や喉の痛み、頭痛、吐き気や食欲低下、嘔吐、変な咳やゼーゼーの呼吸と高熱など、症状が変わってきたら再度診察を受けましょう。(発熱して少し様子を見てから診察を受けるのもあります。) ※24時間は慎重に子どもの症状を観察しましょう。一度受診したからと安心せずに症状の変化に対処が必要で、二度手間かもしれませんが再度受診を心がけて看病しましょう。 ※病児保育の利用の際は、医師の診断と許可が必要です。利用可能な状態か伺ってください。お願いします。